

## 「人生の最終段階における意思決定支援」の目的と課題

### 1. 現状

- 人生の最終段階にどのような医療・ケアを受けたいか、多くの人が考えているが、実際に家族や医療介護関係者と話し合ったことがない人が多い。
- 自分が意思決定できなくなった時に備えて、希望する医療・ケアについて記した事前指示書をあらかじめ作成しておくことに対し、多くの人が賛成しているが、事前指示書はほとんど作成していない。また、自分の医療・ケアに関する方針を決めてほしいと思う人を選定しておくことについて、多くの人が賛成しているが、実際に選定している人は少ない。
- 本人の意思に沿った医療・ケアを受けるため、家族や医療介護関係者と繰り返し話し合うプロセス（アドバンス・ケア・プランニング）について、一般の人も医療介護関係者もほとんど知らない。
- 人生の最終段階で自宅を医療・ケアを受けたい場所と考えている人の多くが自宅で最期を迎えたいと考えているが、死亡の場所が自宅の割合は低い。

### 2. 目的と課題

- 現状では、人生の最終段階における医療・ケアについて、本人の希望が必ずしも叶えられておらず、本人が望む最期を迎えられていないのではないか。
- 人生の最終段階における医療・ケアに関して、本人の意思が尊重され実現できるよう支援する方法を考えるべきではないか。
- 人生の最終段階に本人が希望する医療・ケアをあらかじめ考え、家族、医療介護関係者と話し合うことが当たり前となるように市民一人ひとりに広めていくためにはどのようにすべきか。
- その上で、本人の希望が実現できるよう人生の最終段階における意思決定支援をどのように進めていくべきか。